

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成19年8月22日

【評価実施概要】

事業所番号	0770302511		
法人名	株式会社 エコ		
事業所名	グループホーム 陽だまり		
所在地	〒963-8041 福島県郡山市富田町字菱内32番地 (電話) 024-962-7178		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなのビル302号室		
訪問調査日	平成19年7月26日	評価確定日	平成19年9月3日

【情報提供票より】 (平成19年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 16人, 非常勤 0人, 常勤換算	12.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1～2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	9,000円(4月～10月) 12,000円(11月～3月)	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(19,950円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要

利用者人数	18名	男性	8名	女性	10名
要介護1	7名	要介護2	5名		
要介護3	5名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 79.1歳	最低	62歳	最高	89歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐々木医院、八幡歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

2階建て2ユニットのこのホームは、郡山の中心市街地に近い住宅地にあり、玄関先に鉢植えの花が並べられ、敷地内の菜園では沢山の種類の野菜が作られている。この野菜を使ったメニューが食卓にならび、利用者も調理に参加しているため、食事の時間が楽しみになっている。地域密着型サービスの事業所であることを意識して運営推進会議の進め方を工夫しており、町内会にも入会し地区行事に積極的に参加しているため、地域の協力が得られている。ホームの行事には地域の人たちも招待し盛んに交流している。また、入居者本位の生活を重視し、家族を行事に招待したり、職員の勤務体制を変更するなどして支援している。近い将来、利用者の思い出の写真を一人ずつのアルバムとして残すことも検討している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 昨年の評価結果について、職員間で情報を共有し改善策を検討した。職員のストレスを解消するためリビングと和室の境にカーテンを設置した。利用者の時の見当識への配慮のために手作りの大きなカレンダーを作成した、思いや生活歴を把握するため、センター方式の記録へと変更し、少しずつ記録が増えてきている。外部評価を自分たちのレベルアップの良い機会だと考えている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価はサービスの質の向上の基本であると考え、職員全体で取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5) 運営推進会議は、地域包括支援センター、地区区長、民生委員、老人クラブ会長、利用者家族、法人代表、ホーム長等の委員が活発に意見交換している。地域の委員が協力的であり、ボランティアの訪問やホーム前の道路の拡張等に積極的に関わってくれている。ホームの行事にも委員を招待し参加してもらえるため、委員の理解が得られている。ホームが地域密着型の事業所となるよう工夫し取り組んでいる様子が伝わってくる。
重点項目②	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 電話や面会の時に家族の意見や要望を聞き取るよう働きかけている。職員は利用者を尊重しながら、家族の立場に立ち要望等に速やかに対応している。今後は、利用者や家族からの要望とその対応について記録に残してほしい。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームは町会に入会しており、地域の清掃活動等に積極的に参加している。ホームの行事では小学生がヨサコイを踊ってくれたり、地域のボランティアがホームを頻りに訪れたり、専門学校の学生ボランティアを受け入れたり、地域の芸能祭を見に行ったりと地域と積極的に交流している。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての理念を検討する際に、全職員から公募し意見交換をしながら、地域との関わりを含めた理念に作り変えた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員で検討して作成した理念であるため、分かりやすく覚えやすい表現である。毎朝申し送りの時に唱和しているため、職員は皆理念を理解し、サービス提供の場で具体化し日々の実践へとつなげている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入り、地域の清掃活動や芸能祭などの行事に参加している。また、ボランティア等を受け入れ、地域との交流に積極的に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を改善するため、職員間で話し合いをし、畳コーナーの境にカーテンを付けたり、手作りのカレンダーを作成したりして改善策を検討しながら前向きに取り組んでいる。評価の意義を理解しており、自己評価についても全職員で取り組んでいる。調査当日の評価調査員に対しても真摯な態度で接し、質問への返答も的確である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活発な意見の交換がされており、その内容を詳しく記録している。会議の運営内容に工夫が感じられるため、委員がホームの状況を理解し、協力してくれるような体制になってきている。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月利用者ごとに、日頃の様子を記入した手紙と金銭管理状況等を家族に報告している。先日、施設長が辞めた際にはその件もお知らせした。来月からは、利用者の写真を添え報告するよう予定されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、家族の面会時等に要望を聞き取ったりしている。すぐに申し送りで伝えて対応する体制が整備されているが、記録の中で確認できないのは残念である。今後は、記録に残す必要があると思われる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員交代による利用者へのダメージを理解しており、やむを得ない場合は利用者の動揺が最小限に抑えられるよう、配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度から法人指導のもと職員のステップアップが図られる勉強の機会が確保されている。働きながらのトレーニングを通し、職員を育てる取り組みをしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内にグループホームが複数あるため、全ての職員が他のグループホームで研修を受けられる体制とし、サービスの質の向上を目指している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、畑作りや食事に関することなどを利用者に教えてもらいながら行っている。訪問調査の際も、利用者が中心となって昼食(お好み焼き)の準備をしていた。利用者も職員も、お互いに尊重し合っているのが感じられる。英語の得意な利用者があり、手作りのカレンダーに英語の表示もしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族の思いについては記載されているが、変化が確認できない。利用者や家族の思いは変わっていくものである。日常的に利用者や家族の意向を確認し、記録することが大切である。	○	利用者の願いを聞き出しやすい質問にし、問いかけていくことで確認することができると思われる。家族にも「本人の願い」を一緒に考えてもらい、支援してほしい。聞き取った内容は記録し、情報を職員間で共有する必要がある。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者が利用者の介護計画を見直す際、気づいたことを意見として提出することになっており、ケースカンファレンスで検討しながら介護計画を作成している。職員や管理者は、面会の際に家族へ介護計画を報告し意見を聞き出すよう心がけている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期計画終了時にはモニタリングをしているが、長期計画の終了時まで計画の立て直しは行われていない。日々確認している介護計画の中で終了したものがあれば削除し、見直す必要があると思われる。職員が利用者の状態変化にすぐに気づき悪化した際には、その状態変化に合わせて介護計画を見直している。良くなっている時も同様の見直しが大切である。変更した内容は家族へ報告し、職員間での情報共有は申し送り等でその日のうちに行うことになっている。	○	利用者の状態を把握し、短期計画終了時にモニタリングしているが、長期計画終了までは同じ介護計画を使用している。状態が良くなった場合でも、利用者の状態に合わせた介護計画の見直しは大切であるため、短期計画終了時には、新しい計画の作成が必要だと思われる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医への受診を支援している。通院に当たっては家族や職員が対応し、全職員で利用者の情報を共有している。身体状況の変化についてはその都度家族へ報告し、定期的に月例報告も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの対応方針として、重度化した場合には特養への照会と入所申し込みを行うことにしている。現在、特養申込者1名、検討中1名。利用者と家族からは事前確認書を提出してもらっているが、身体状況や考え方は変化するので、一定期間が経過した場合には、再度意志確認を行い、常に最新の意志確認をしておくことが必要だと思われる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉遣いや声のトーンがやわらかく、落ち着いた状態で言葉を交わしている。個人情報の利用についての同意書も作成している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	洗濯物の干し方にこだわりのある利用者は、自分のペースで納得がいくまで行っている。リビングのソファや廊下の椅子の置き方を工夫して、利用者がその時の気分で居場所を選ぶことができる。また、朝4時頃起き出す人もいれば、7時過ぎに起きてくる人もいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの菜園で収穫される野菜が豊富なので、メニューも多彩である。曜日を決めて利用者の好みのメニューを取り入れ楽しんでいる。食事の後片付けもサービス精神旺盛な人がリーダー格で積極的に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に応じて入浴支援を行っている。今後は、職員のローテーションを工夫して夕食後の入浴も取り組んでいきたいと考えている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	趣味を同じくする利用者同士が仲良く将棋やカラオケ、園芸などを行い、若い職員は和服の知識や小物の作り方などを教えてもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	ホームの前が公園になっていて、好きな時に散歩に出かけられる環境である。また、近くにある車椅子対応の温泉施設で日帰り入浴を行い、ファミリーレストランでのランチにも出かけている。さらに、季節に応じた行楽を実施している。日常的には食材の購入に利用者も同行してもらい、買い物の楽しみも味わってもらっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーが設置されていて、出入りの状況は確認できる。一人で外出しようとする利用者に対しては、さりげなく後をついて行き、頃合いをみて声を掛け一緒に戻ってくるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を受けて避難訓練や消火器の使いかたなどの実技の訓練を行っている。しかし、地域の協力体制の確保や非常災害時に必要となる備蓄等がされていない。	○	2階の非常口の開閉を行ったことがないため、2階からの避難に対して、いざと言うときに職員がパニックに陥らないか心配である。近所の人たちの協力を得ながらどこまでできるかも課題となる。また、災害用の食料の備蓄が行われていないので、水、お粥など最低限の備蓄を法人全体として早急に検討してほしい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の都度、個人ごとに摂取量を記録し、栄養バランスにも考慮されている。適切な水分量も確保されている。また体重測定を月に一回行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングはさほど広くはないが、利用者の動線に沿ったレイアウトがされている。季節感も十分に取り入れられており、気の合った人同士が静かにおしゃべりを楽しむコーナーも作られている。浴室、トイレも清潔に保たれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や家族の写真、手芸品などが飾られ、利用者の使い勝手のよい居室になっている。利用者の状態に応じて、裁縫箱や書道道具等も持ち込んでおり、豊かな生活感を感じさせる。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム 陽だまり

記入担当者名 田中 明美

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。